

# 興部町

8338 松尾 瞳

## 1. 概要と歴史

### 1.1 名前の由来

興部の語源は、アイヌ語「オウコッペ」より転訛したもので「川尻の合流しているところ」の意であり、当時、興部川、藻興部川が合流し、オホーツク海に注いでいたところから、このように呼んだものである。

### 1.2 概要

町章（図1）は輪郭の「北」の3文字は北見を表し、緑の色彩は平和にして発展の状態を示している。中央の「興」の字は本町名の頭文字をとり真紅の色彩は赤誠と熱意を表したものである。町旗（図2）は興部（OKOPPE）の頭文字の「O」と「P」を図案化したもので、群青はオホーツク海の厳しい風雪に耐えながら伸びゆく興部の姿を表し、地色の乳白色は乳牛を主体とする酪農を意味している。また、「P」の形は漁船を、「O」の円は町民の親和と総力をイメージしている。

町花はハマナス（図3）でオホーツクを代表する淡紅色のひときわあざやかな花で、育てやすく身近に咲く花である。また、町木はナナカマド（図4）で風雪に耐えられ、紅葉が美しく、赤橙色の果実をつけ、北国のムードをもつ親しみやすい木である。

また、主に市町村の境界にあたる道路上にその市町村の名称と特徴やシンボルをイメージで表現している標識であるカントリーサイン（図5）は、町の主な産業の酪農と漁業を、牧場景観と牛、ホタテ貝で表現、町の花「ハマナス」を加えたデザインである。

図1 町章



出典：興部町役場 HP

図2 町旗



出典：興部町役場 HP

図3 ハマナス



出典：興部町役場 HP

図4 ナナカマド



出典：興部町役場 HP

### 1.3 歴史

興部町は、宝永年間に松前藩の漁場として支配され明治 22 年に初めて、沙留に和人が定住、同 31 年に石川、高知、富山など各県より入地者が来住して本格的に開発が進められた。明治 42 年、雄武より字興部を、紋別より字沙留、ルロチの 2 ケ村を分割併合して、興部村外 2 ケ村長役場が設置された。

大正 4 年、北海道 2 級町村制が施行され興部村となり、その後、大正 10 年、国鉄名寄線が全通し、農業、林業、漁業の飛躍的發展をみるに至った。大正 14 年、興部村から西興部村を分村したが、農林漁業の發展とともに商工業も次第に發展し、昭和 26 年に町制が施行され、今日に至っている。

図5 カントリーサイン



出典：興部町役場 HP

## 2. 位置と気候

### 2.1 位置(図6)

興部町は、網走市長管内の西北部、オホーツク海の中部にあり、北緯 44 度 13 分 03 秒から 44 度 29 分 45 秒・東経 142 度 51 分 43 秒から 143 度 16 分 55 秒のところに位置し、東に紋別市、西南に西興部村と滝上町、西北に雄武町とそれぞれ隣接している。北見山脈を源としてオホーツク海に注ぐ 5 つの河川とその支流の流域に農用地が広がり、海岸線に近づくにしたがい、なだらかに起伏する段丘地が広がっている。

図6 地図

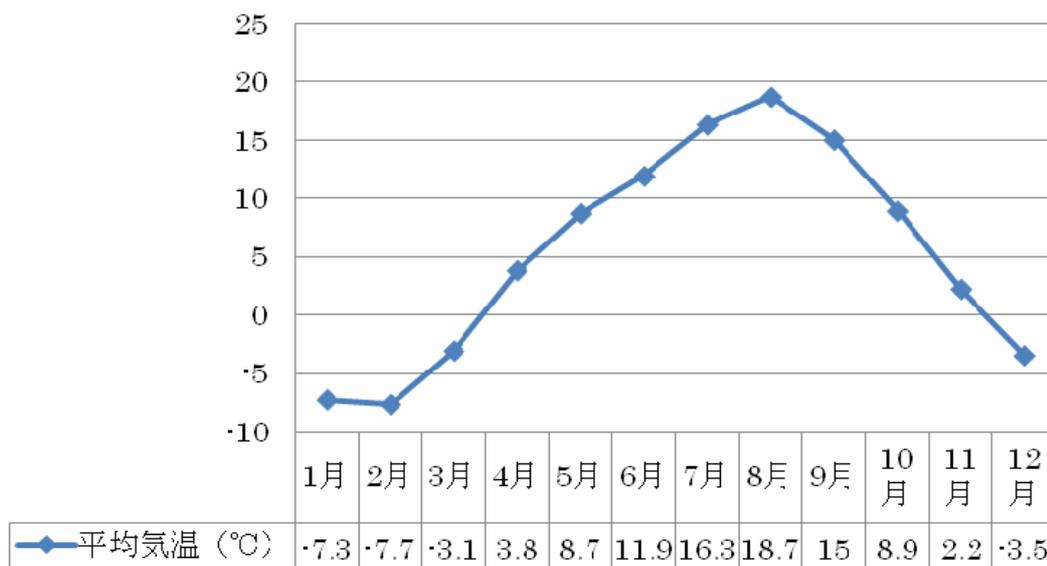


出典：網走支庁 HP

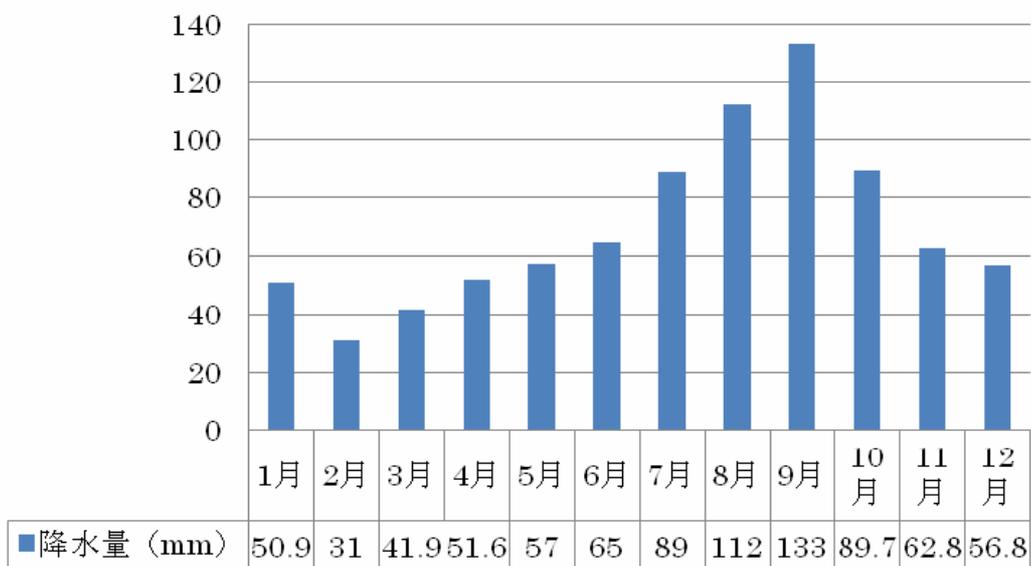
## 2.2 気候

春季から秋季の間は冷涼な気候である。また、冬季は流水が接岸し厳しい寒さになる。過去に記録した最高気温は平成 11 年 8 月の +34.3 度で、最低気温は昭和 53 年 2 月の -29.8 度である。

グラフ1 平均気温の推移



グラフ2 降水量の推移

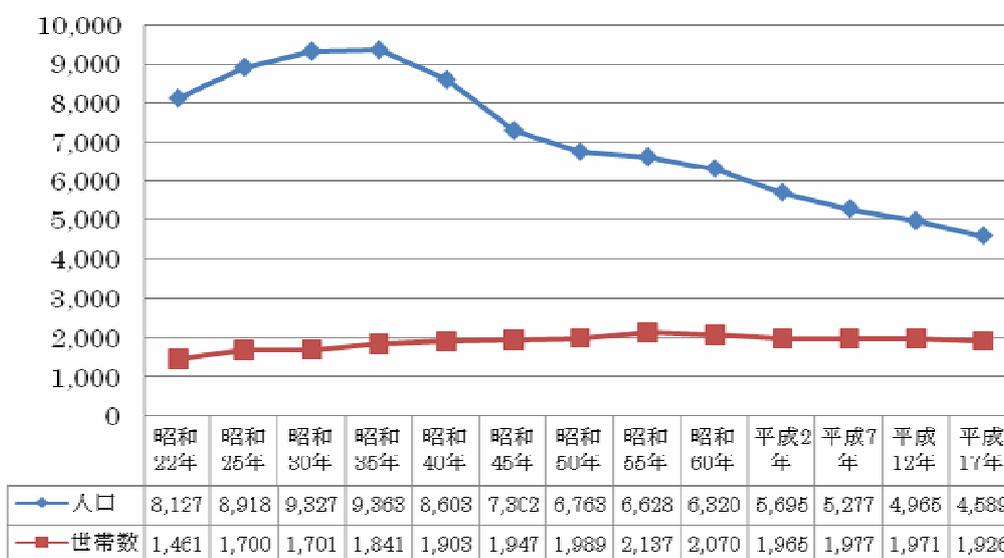


### 3. 人口と世帯数

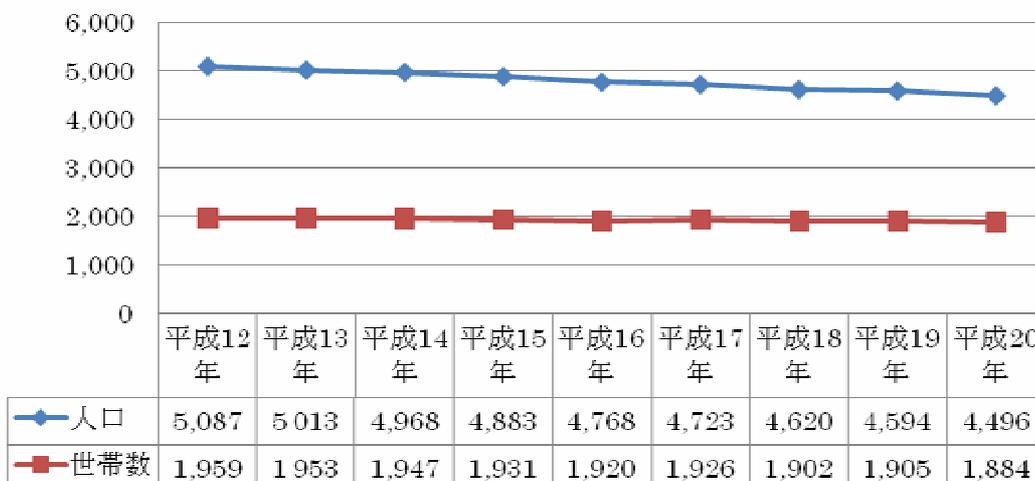
昭和35年をピークに人口は減少し続けている。しかし世帯数はさほど変わってはいない。バブル崩壊後に、都市一極集中の振り戻しが生じ、地方圏で、人口減に多少歯止めがかかる傾向も見られる中で、少子高齢化が進む興部町では人口の減少が続いている。

また、平成12年から20年の短期間の間でも人口は毎年減少している。

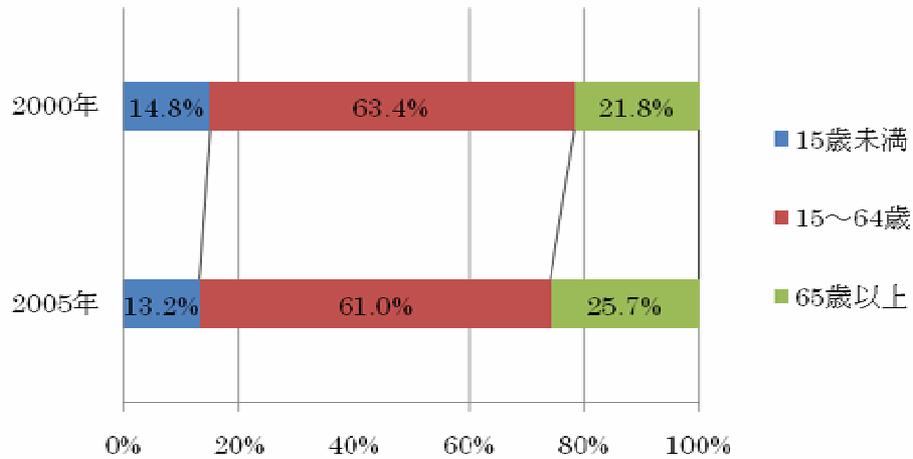
グラフ3 人口と世帯数の推移(国勢調査)



グラフ4 人口と世帯数の推移(住民基本台帳データ)



グラフ5 年齢別割合の推移の推移(国勢調査)

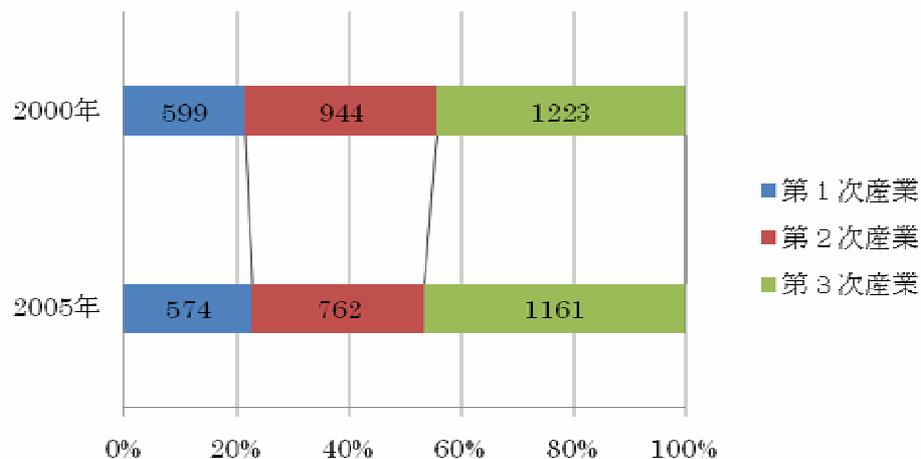


#### 4. 産業

##### 4.1 産業別人口

2000年から2005年にかけて従事者自体の数が減少している。その中で第1次産業と第3次産業の割合は増加しているが、第2次産業の割合は減少している。また、2005年の第3次産業の割合は約半数を占めている。基幹産業である農業や漁業の停滞が他の産業に波及している可能性がある。

グラフ6 産業別人口の割合の推移(国勢調査)



## 4.2 商工業

地元の産物に付加価値をつける農林水産物の各加工場や土木建築資材の製造工場も活況を呈していて、なかでも昭和9年、前身の進出以来順調に成長してきた雪印乳業(株)興部工場(図7)は、まさに地域に根ざしてまちとともに発展を続ける企業となった。興部工場では地元の、新鮮で質の高い牛乳をたっぷり使用してコンデンスミルク、エバミルク、脱脂粉乳などを製造していて、特に練乳部門では同社の生産を一手に引き受けている。

図7 雪印乳業興部工場

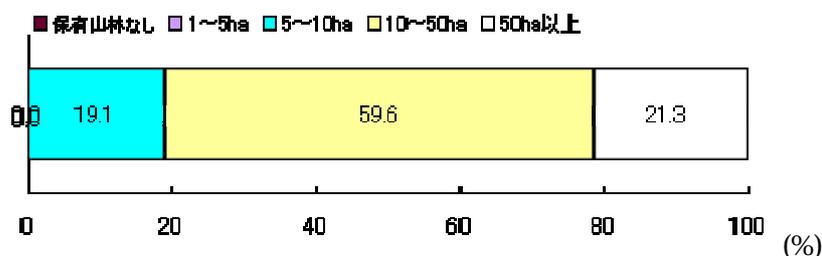


出典：興部町役場 HP

## 4.3 林業

町土の71%を森林が占める興部町では、人と森がより親密に、より気軽に対話ができるような、自然にも人にもやさしい環境づくりに取り組んでいる。木工場から出たおがくずやチップはバーク堆肥の原料とするなど、資源の有効な活用を図り、将来への財産づくりとして森林を守り育てることに専念している。

図8 保有山林規模別にみた林業経営体数の割合  
林業経営体数(47経営体)



出典：農林水産省 HP

## 4.4 酪農

原料生産地としての地域から脱却し、少しでも自分達の手で作ったものを消費地に届けるための「モノづくり」を新たなスタイルと考え、アイスクリーム、ハム・ソーセージ、ナチュラルチーズなど農畜産物の研究・製造を進め、地域特性を生かしたさまざまな活動が行われている。

図9 酪農



出典：興部町役場 HP

#### 4.5 漁業

ホタテをはじめサケ、マス、毛ガニなどオホーツク海は限りない恵みを届けてくれる。最近では養殖技術の発達や稚魚の放流事業、水源確保のための植樹事業など、単に獲るだけの漁業から、育てていく漁業へと将来を見据えたものに変化してきている。コンブやウニを流氷から守るため、世界でも初めての防氷堤を設置し、これらの活動により沿岸漁業資源の確保と漁業経営の安定が実現されつつある。

また、さけやほっけなどさまざまな海産物を漁獲しているが、ほたて貝の漁獲量がほかのもの比べてずば抜けて多い。このことから興部町では、養殖漁業を中心とした漁業を行っていることがわかる。

図 10 オホーツク海のホタテ漁



出典：興部町役場 HP

グラフ7 2007年度漁獲量(トン)

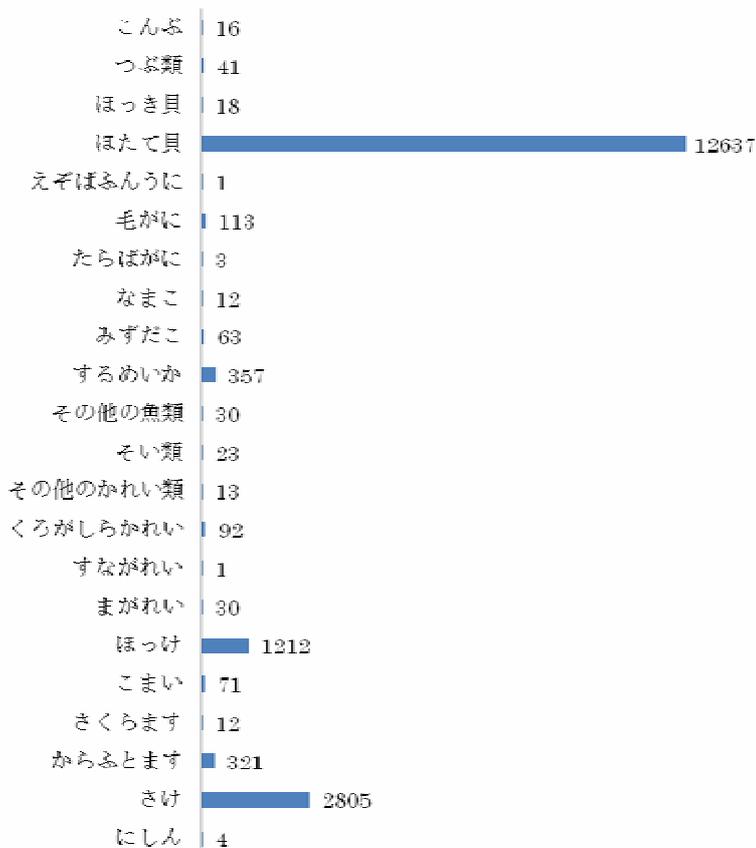
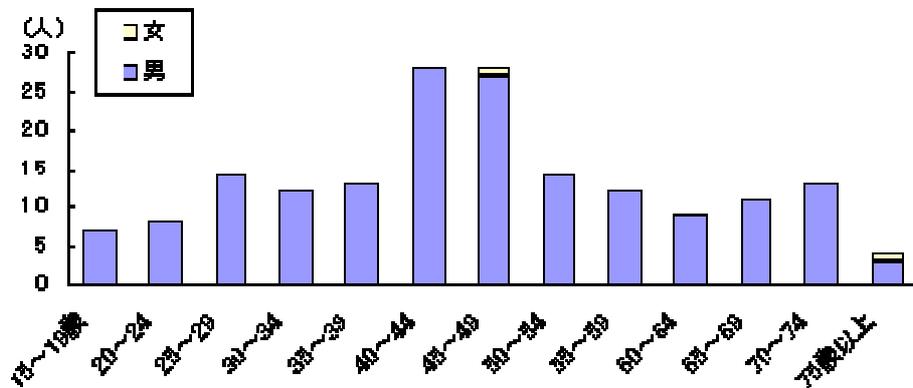


図 11 性別・年齢別漁業就業者数



出典：農林水産省 HP

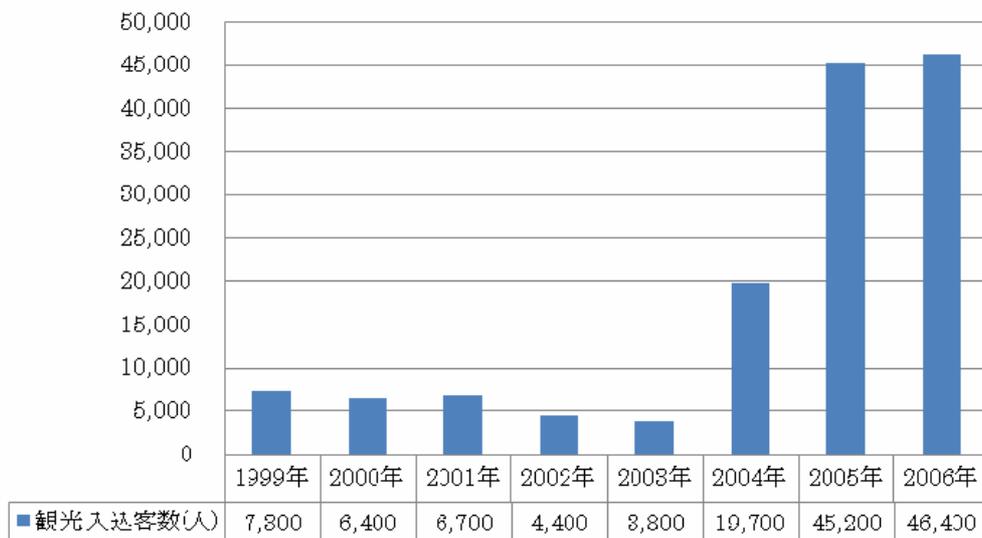
就業者数が最も多い世代は 40 歳代であり、若い人が少ない。このままでは漁業就業者がどんどん減少してしまうだろう。

## 5. 観光

### 5.1 観光入込客数

観光入込客数が 2004 年に急増している。また 2005 年にも急増しているので、役場や観光協会の努力が観光入れ込み客数の増加につながったのだろう。

グラフ8 観光入込客数の推移



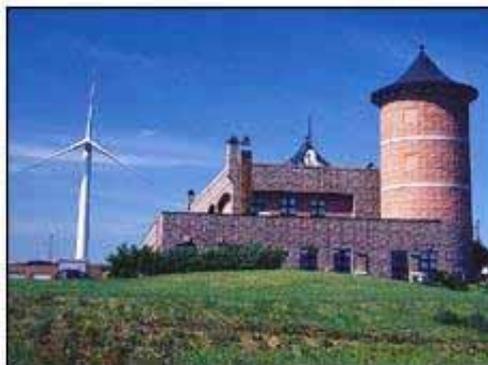
## 5.2 名所

### 5.2.1 モーモー城と風車（図12）

興部町のシンボルとなっているお城のような建物、正式名称は『オホーツク農業科学研究センター』である。ここでは、各種研究や分析などを行っている。

隣接されている風車は、『興部町風力発電所』である。「自然と共生する地域社会の形成」を目標とし、平成13年3月26日に完成した。この景色を写真に撮る人の姿もたくさん見かける。丘から眺める夕焼けや夜景はとても綺麗である。

図12 モーモー城と風車



出典：興部町観光協会 HP

### 5.2.2 米田御殿（図13）

興部町指定歴史的遺産第一号の指定を受けている『米田御殿』は明治31年に興部に入植し木工場や澱粉工場、火力発電所を設立するなど多大な貢献をした「米田常作」が、大正11年に皇族で貴族院議員「柳原義光伯爵」を迎える迎賓館として建てた物である。この『米田御殿』は今もなお当時の佇まいを残し、その時代を生きた米田常作の思いなどすべてを語り伝えている。

図13 米田御殿



出典：興部町観光協会 HP

### 5.2.3 沙留海水浴場とコテージ（図14）

毎年7月中旬から8月中旬までの約1ヶ月間、開設しており、テントサイトや海の家、売店などがありたくさんの海水浴客で賑わう。また、隣接しているコテージ『しおさい』も6月15日～9月10日までの4ヶ月間営業している。2棟あり、そのうち1棟はバリアフリー設計で障害者の方も安心して利用できるようになっている。

図14 沙留海水浴場とコテージ



出典：興部町観光協会 HP

#### 5.2.4 アニウ・ジョイパーク（道の駅） とルゴースァエクスプレス（図 15）

旧興部駅が興部交通記念複合施設『アニウ』として生まれ変わった。鉄道の歴史をテーマにした展示コーナーの他、バス待合所やイベント館があり、24 時間トイレも設置されていて『道の駅』にも登録されている。『ジョイパーク』は噴水や水路、芝生広場やステージが整備された憩いの広場として、そしてイベント会場として広く活用されている。また、『ジョイパーク』内にあるディーゼルカーを改造した簡易休憩所&簡易宿泊所『ルゴースァエクスプレス』は無料で使用できるため、ライダーにとっても人気がある。この『ルゴースァエクスプレス』は5月～10月まで利用できる。

図 15 アニウ・ジョイパークと  
ルゴースァエクスプレス



出典：興部町観光協会 HP

#### 参照ホームページ

興部町役場 HP： <http://www.town.okoppe.lg.jp/index.html>

興部町観光協会 HP： <http://www.town.okoppe.lg.jp/okoppekanko/index.html>

網走支庁 HP： <http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp/>

北海道庁 HP： <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/index.html>

総務省統計局 HP： <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/>

農林水産省 HP： <http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/index.html>